

# アドヴェント：待つことの希望と喜び

加 納 和 寛

クリスマス前の4週間の名称である英語のアドヴェントの語源は、ラテン語のアドヴェントゥス、直訳すると「到来」「訪れ」です。これを日本で「待降節」、降るのを待つ季節と訳したのはなかなか面白いと感じます。降る、到来するのは言うまでもなくイエス・キリストですが、私たち人間はただ待つしかないからです。

この「待つ」ことは基本的にムダな時間であると思われるような気がします。電車やバスを待つ間、あるいはその車内で、ほとんどの人（私もその一人です）が一心不乱にスマートフォンを操作していますが、時間の有効活用であると同時に、ただ「待つ」ことの無意味さに耐えられないので、ほかのことで気を紛らわせたいという心理もそこにあるように感じます。

ではアドヴェントはどうでしょうか。クリスマスを「待つ」のは電車やバスを「待つ」のとは意味が違います。クリスマスは、あなたを愛しているイエス・キリストと出会う日です。仮に、ふだん離れている最愛の人と再会する日が数日後に迫っていると想像してみてください。その日のことを考えるだけで心は希望と喜びに満たされ、「待つ」ことはむしろ楽しく、充実した時間となるでしょう。アドヴェントも同じです。本来ならば寒さと年末の忙しさが心が沈みがちなこの期間を、イエス・キリストとの出会いが、喜びにあふれる日々に変えてくれるのです。

実は私たちは、アドヴェントに限らず、いつも「待つ」ことをしていると言えます。電車やバスに限らず、メールの返事、終業・下校時間、家族の帰り、明日の朝が来ること、数ヶ月後の長期休暇、仕事をリタイアする日、そして人生最後の日。いろいろなことを「待つ」のが、私たちの毎日、いや人生そのものであるとも言えます。しかし私たちは人生という名のアドヴェントを、何かで気を紛らわして過ごさなければならないではありません。人生のゴールの向こうでは、私たちを心から愛しているイエス・キリストと、遂に顔と顔を合わせる出会いが待っています。その瞬間を想う時、私たちの今日この一日一日は、希望と喜びの光輝くアドヴェントの日々になるのです。

(神学部助教)